

# 令和7年度 文教委員会資料

## 【所管事務の調査（報告）】

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組状況について

**資料1** 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく令和6年度の実施について

**資料2** 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組の今後に向けた検証について

市 民 文 化 局

(令和7年5月29日)

# 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」 に基づく令和6年度の取組について



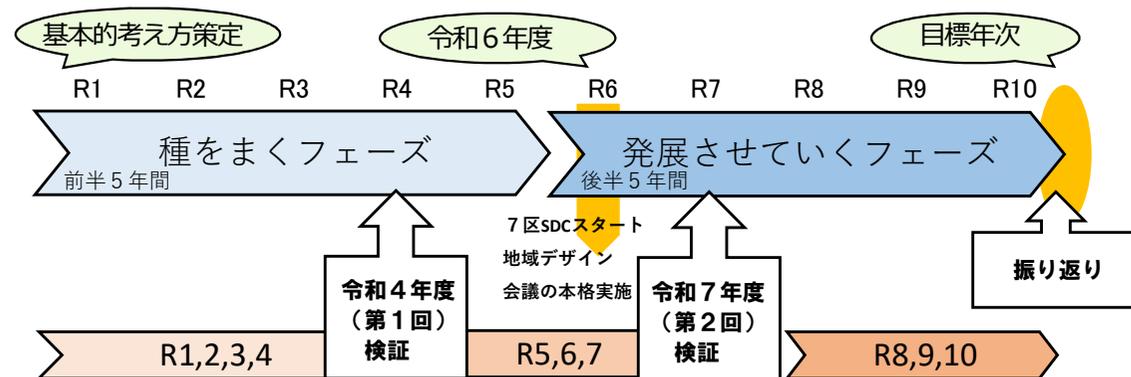
市民文化局コミュニティ推進部

# 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく令和6年度の主な取組

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、幸福度が高く誰もが認められる社会的包摂の進んだ持続可能な都市型コミュニティを描いた「希望のシナリオ」の実現を目指し、地域包括ケアシステムの構築をコミュニティ施策の視点から支え相互補完的に充実させるため、多様なつながりやコミュニティ形成支援を推進した。

令和6年度は、全ての区でソーシャルデザインセンターが稼働、地域デザイン会議を本格実施するなど、これまでの取組を継続・発展させた。

また、「まちのひろばフェス」「7区ソーシャルデザインセンター交流会」と「地ケアフェア」を初めて合同で開催するなど、地域包括ケアシステム構築に向けた取組との連携を一層進めるとともに、市制100周年記念事業とも連携しながら取組を展開した。



- 01 「まちのひろば」に関する取組**  
まちのひろばプロジェクト  
①広報・啓発 「まちのひろば」の見える化・機運醸成の取組  
②仕組みづくり
- 02 SDCに関する取組**  
・7区SDC交流会  
・各区SDCの取組
- 03 地域デザイン会議に関する取組**  
・各区における地域デザイン会議の取組  
・広報・情報発信（取組の見える化）について
- 04 町内会・自治会支援の取組**  
・町内会・自治会活動応援補助金の運用  
・町内会・自治会への加入促進の取組  
・町内会・自治会への負担軽減の取組  
・町内会・自治会アドバイザー派遣事業  
・「川崎プロボノ部」によるデジタル化支援の取組
- 05 マンションコミュニティ等の住民自治組織に関する取組**
- 06 市域レベルの取組**
- 07 職員の意識改革や人材育成の取組**  
・地域コーディネーター研修  
・まちのひろば創出職員プロジェクト

# 01 | 「まちのひろば」に関する取組

## まちのひろばプロジェクト

「まちのひろば」の創出を支援し、多様なつながりを広げるため、(1)広報・啓発（見える化、機運醸成）と、(2)仕組みづくり を「まちのひろばプロジェクト」として一体的に推進した。

### (1) 広報・啓発 「まちのひろば」の見える化、機運醸成の取組

#### ① まちのひろばWAプロジェクト

「まちのひろば」の趣旨に共感、賛同する市民と「まちのひろば」を  
見える化し、共感を広げるプロジェクトとして推進

活動や場の情報を本市SNS等で紹介するとともに、活動時に「まちのひろば」のPRにご協力いただき、市民と協働して見える化を進めた。

WAプロジェクト賛同団体	計88団体（新規12団体）
--------------	---------------

#### ② SNSの活用

情報発信、見える化を行い、本市のコミュニティの取組に興味関心を持つ人を増やし、共感を広げた。

	登録者数 (令和7年3月末日時点)	3か月間の閲覧回数 (令和7年1月～3月)
YouTube	約1,500人	約10,000回
Instagram	約1,500人	約50,000回
note	約190人	約15,000回
つながっどKAWASAKI (Facebook)	約570人	約45,000回

### ③ まちのひろばフェス×地ケアフェア

地域包括ケアシステム構築に向けた連携（合同開催）

コミュニティや地域包括ケアシステムの取組を知り、住み慣れた地域でワクワク暮らすためのヒントを得られるイベントとして実施した

日時：令和6年12月8日（日）10時～15時 場所：市役所本庁舎 参加者：約1,000人

- 内容：①地域で活動する市民によるマルシェ（「ほっこりポスター」との連携）  
②地域包括ケアシステムに賛同する企業・団体によるブース出展（健康チェック、相談等）  
③ホールプログラム（パネルディスカッション、講演会、7区SDC交流会）他

### ④ 市制100周年記念事業「市民100人100通りのほっこりポスター」

「かわさきって人だよな。」をキャッチコピーとして市民100人の温かいエピソードを添えた100種類のポスターを制作。市内各所での掲出やSNSにより、「まちのひろば」や地域人材を  
見える化し、地域のつながりや支え合いの大切さを伝えた

全市立学校が取り組む市制100周年記念事業「学校e～ね★サミット」として鷺沼小学校が実施した教育活動や、「まちのひろばフェス×地ケアフェア」との連携などを通じて、市民の地域への愛着や誇りを醸成した。



← 学校e～ね★サミット 全市交流会で 鷺沼小学校6年生による発表の様子



### ⑤ その他普及啓発の取組（全国都市緑化かわさきフェアへの出展等）

# 01 | 「まちのひろば」に関する取組

## (2) 仕組みづくり

### ① 公共施設の地域化

「公共施設の地域化庁内向けガイドライン」に基づき、庁内ワーキングにて好事例共有や意見交換を行いながら、引き続き取組を進めた。

公共施設の地域化の取組の一例

宮前区役所向丘出張所	行政会議室につき、利用希望日の2週間前時点で空きがある場合、区民活動支援コーナー登録団体の利用を可能とした。
いきいきセンター（老人福祉センター）	さいわい、多摩のいきいきセンター地域交流スペースの活用を図るため開放事業を開始。
川崎市アートセンター	3階のコラボレーションスペースを活用し、地域のNPO団体と連携し、毎週月曜日（施設点検日を除く）にコンシェルジュを配置して、芸術・文化に関わる相談・案内業務を行っている。

### ② 地域人材に関する取組

#### ア. 地域支えあい人財づくりツアー

民生委員児童委員等の地域活動の担い手確保を目的として、地域に関心がある人の活動の実践につながるよう、地域活動を見学・体験するツアーを実施した。

地域包括ケアシステム構築に向けた連携

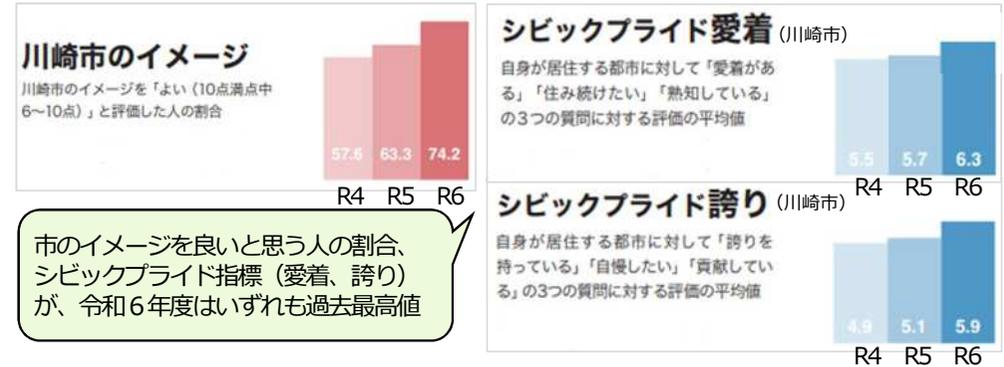
中原区	「ひとり暮らし高齢者会食会 ももの会」、「お茶べり会」の活動見学
宮前区	講座「地域を支える民生委員の魅力を学ぶ」の開催 地域コミュニティカフェ「なかよしサロン」の活動見学
多摩区	地域活動マッチングイベント「地域のつながり！たまたまみつけ！」（地ケアフォーラム×地域デザイン会議）に出席した団体の活動見学

#### イ. 協働・連携研修の実施（28ページ参照）

## 取組の方向性

市制100周年を迎え、市のイメージが向上し、愛着や誇りをもつ市民が増えたことを好機ととらえ、地域人材やコミュニティを育む多様な取組と「まちのひろばプロジェクト」との相乗効果を生み出し、多様なつながりや居場所の創出につなげていく。

令和6年度川崎市都市イメージ調査 実施結果速報より



各局における地域人材やコミュニティを育む多様な取組の一例

川崎ワカモノ未来プロジェクト	高校生によるまちづくりへのチャレンジを地域ぐるみで応援するプロジェクト
こと！こと？かわさき	市内の文化芸術資源を介して人々がつながり合う「アートコミュニティ」を育むプロジェクト
みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園	多様な主体との連携による、公園等における持続的な協働の取組
かわさきパラムーブメント	障害のあるなしにかかわらず、市民・事業者・団体・行政が連携・協働しながら共生社会の実現に向けた様々な活動を展開

## 02 | SDC（ソーシャルデザインセンター）に関する取組

令和6年4月に川崎区、麻生区のSDCが立ち上がり、7区全てでSDCが稼働した。7区SDC関係者や興味関心がある市民の学び合いや気づきの場として、「まちのひろばフェス×地ケアフェア」とあわせて7区SDC交流会を開催した。

### 7区SDC交流会

各区SDCの現況や課題を共有し、これからのSDCを語りあう機会として開催。

令和6年度は、全区においてSDCが稼働した節目の年となることから、SDCの活動をまちづくりの系譜全体から捉え直し、今後のさらなる発展に向けた示唆を得ることを目的として、専門家による講演会も実施した。

同時開催された「まちのひろばフェス」「地ケアフェア」からの参加者もあり、新たな気づきが得られる学び合いの場となった。

**日時:** 令和6年12月8日(日) 15:00~18:00

**参加者:** 94名(内、関係職員20名)

#### 内容

第1部: 活動発表「7区SDCの今を知る」

第2部: 講演「まちづくりの系譜からSDCの取組を考える」

東京大学まちづくり研究室 教授 小泉 秀樹氏

第3部: 意見交換「SDCのこれからを語る」



### 取組の方向性

引き続き7区それぞれの状況に応じた伴走支援を行うとともに、SDCの認知度向上の取組を進める。また、7区相互の学び合いや連携、市民の共感を広げる機会の創出に向けて取組を推進していく。



まちのひろばフェス × 地ケアフェア

## SDCを語りつくせ! 7区SDC交流会

- 15:00 ○あいさつ・本日の流れの説明  
○川崎市コミュニティ施策の概要説明  
○地域デザイン会議の説明

### 15:15 【第1部】「7区SDCの今を知る」

- 川崎区ソーシャルデザインセンター
- さいわいソーシャルデザインセンター「まちのおと」
- 中原区ソーシャルデザインセンター「YORIAI」
- 高津区ソーシャルデザインセンター
- 宮前区ソーシャルデザインセンター「みやまえ BASE」
- 多摩区ソーシャルデザインセンター
- 麻生区ソーシャルデザインセンター

### 16:00 ○休憩

### 16:10 【第2部】講演「まちづくりの系譜からSDCの取組を考える」

東京大学まちづくり研究室 教授 小泉 秀樹氏

2024  
12/8日  
15:00~18:00  
川崎市役所東庁舎



### 16:40 【第3部】「SDCのこれからを語る」

- 1) 自己紹介
- 2) テーマ①SDCの良いところ、お悩みを共有しよう
- 3) テーマ②SDC…どんな5年後になりたいか? 語ろう
- 4) グループ意見発表
- 5) 講師コメント
- 6) まとめ

### 17:55 ○事務連絡(アンケート&交流会)

○記念撮影

### 18:00 ○全体交流会



## 02 | SDC (ソーシャルデザインセンター) に関する取組 (川崎区)

### 川崎区

・令和2～3年度に川崎区SDCモデル創出に向けた実証プロジェクト、令和4～5年度に川崎区SDCモデル事業を実施。令和6年度から、これまでの取組結果を踏まえて、コアメンバー、サポートメンバー、事務局の3者のネットワークにより本格実施。  
・令和6年度は、「まちを良くするための相談」への対応や、地域課題の解決を目指した社会実験の展開や新たな参加、交流のきっかけづくりなどに取り組んだ。また、3者のネットワークで地域活動の担い手を支援しながら、これまでモデル事業に関わってこなかった団体等にサポートメンバーとしてネットワークに参加してもらうことで、新たな担い手の確保も目指して取り組んだ結果、ネットワーク参加者数は、令和7年3月末現在でコアメンバー4団体、サポートメンバー16団体(個人含む)、事務局1団体の計21者と昨年度末比で16者増加した。

#### ●令和6年度の主な取組

・「まちのひろば」の創出や地域活動活性化に資するイベント等を行うために使うことのできる「川崎区地域活動助成金」を令和6年5月に新設し、地域主体の活動実施を支援した。

令和6年度には「のびのびぐんぐんフェスタ」(8月開催)、「街角アートウィーク」(10月開催)等、13件の活用があり、2月には、いきいきかわさき区提案事業の報告会と同日に川崎区SDC交流会を実施。当日はSDCメンバー及び提案事業実施団体の計15団体が参加し、情報交換を行うなど、新たなネットワークの構築や親睦を深め、今後のメンバー活動が円滑に行われる機会となった。

#### ●令和7年度の予定

・コアメンバーとサポートメンバーを「SDC連携メンバー」に統合し、事務局との2体制による運営体制に変更。また、SDC連携メンバー負担軽減のため一部機能を事務局に移管し、ネットワーク参加者の加入促進を図る。

・「川崎区地域活動助成金」の活用により、参加のきっかけを増加させ、そこで生まれたつながりから、SDC連携メンバーの登録によるネットワークの拡大を進め、相談・協力対応の強化を図る。



川崎区ソーシャルデザインセンター (SDC) は  
さまざまな団体等のネットワークで活動しています！  
区内のあちこちで、「まちのひろば」を生み出しています！

## 川崎区 ソーシャルデザインセンター

あなたのチャレンジで/  
街が輝く

SDC.KAWASAKIKU

川崎区SDC  
Instagram

SDC連携メンバーの  
活動を紹介しています！

「川崎区地域活動助成金」を活用して  
イベントを実施しました！

## メンバー募集中

川崎区SDCは2024(令和6)年に本格実施！  
子ども、高齢者、外国人、スポーツ、健康づくり、仲間づくり、SDGsなどなど、  
様々なキーワードで活動する団体がネットワークに参加し、まちのひろばを生み出しながら  
新たに活動を行いたい方からの相談なども受けています！  
「SDC連携メンバー」に登録して、区内で活動する仲間を作ませんか？

メンバー登録はこちらから！ →

## 02 | SDC (ソーシャルデザインセンター) に関する取組 (幸区)

### 幸区

・運営団体を公募し、令和2年6月に株式会社イータウンと協定を締結。  
令和3年1月に新川崎タウンカフェ内に、さいわいソーシャルデザインセンター「まちのおと」が開設。

#### ●令和6年度の主な取組

地域住民同士の交流を図る「地域交流会」（防災をテーマに年3回実施）、団体間の交流・活動促進を目的とした「まちづくり応援フォーラム」（年1回実施）、市民参画でSDC事業について話し合う「SDC意見交換会」（年2回実施）、地域の団体活動の運営支援を行う「まちづくり協働事業」などを実施した。

また、地域活動のイベント周知や活動内容などを情報発信するほか、市民と一緒に作成したSDCの広報誌「まちのいと」等では、SDCの活動をはじめ、地域で活動を実施している人物や場所を取り上げ、区民等へ周知を行った。

#### ●令和7年度の予定

引き続き、運営先と情報共有を行いながら、上記の取組を実施し、地域への浸透や活動範囲を広げながら、多様な主体の連携による取組や地域活動の運営等を支援する。



## 幸区SDC「まちのおと」

「まちのおと」とは...  
鹿島田駅と新川崎駅の間にあるコミュニティカフェ「新川崎タウンカフェ」の一角にあります。  
主に5つの事業を通して、地域活動を行う人や、団体・企業・資源・活動をつなぎ、地域交流の促進や地域課題の解決に向けて支援する場です。  
ちなみにこの「まちのおと」という名前の由来は、ノートのように街を聞く意味と、街の音を聞く意味の2つから由来しています。

外部写真  
まちのおとHP

#### ①「知る」事業

様々な媒体を活用し、地域の活動情報を発信しています。

- まちのおとポータルサイト**  
→インターネットを活用し、区内のイベント情報や活動団体の活動情報等、まちの有益な情報を広く発信するためのポータルサイトを運営しています。
- 情報ラック**  
→新川崎タウンカフェ内の情報ラックコーナーに、チラシ、パンフレット等の配架やポスター掲示を行っています。
- 地域情報誌**  
→SDCや地域の団体の活動などを広く知っていただくため、年1回情報誌を発行しています。編集に市民ボランティアが関わること、仲間を増やす機会となり、さらには市民創発のムーブメントの創出に繋がっています。

#### ④「相談する」事業

地域活動を始めたい方などに、必要なノウハウを提供し、サポートを行っています。

- 個別相談・アドバイス**  
→地域活動やまちづくり、コミュニティビジネスなどを始めたい方、すでに実施して課題等をお持ちの方（原則として、区内在住・在勤・在学）を対象として、相談アドバイザーが、新川崎タウンカフェまたはオンラインにて、アドバイスしています。  
団体運営の課題を抱える方々に、他の団体や企業、行政等の紹介を行い、紹介先で活躍している方や活動している様子を、SNSやその他媒体でも見ることができたり、相談に来た方が、タウンカフェでお茶している方とつながるなど、場所がカフェである強みを生かした様々なつながりができました。

#### ②「話し合う」事業

地域のニーズや課題について意見交換しています。

- まちのおと意見交換会**  
→市民参画でSDC事業についての意見交換を行い、SDC事業の理解を深めると共に、意見や役割を確認し、次年度以降の事業計画への反映も行っていきます。

#### ⑤「つながる」事業

地域の方々が交流し、つながりを持つ機会を創出しています。

- 地域交流会**  
→まちづくりや地域活動といった意識のない方も気軽に集いられる場で従来の抱いた手帳や、自然体のつながりづくりを行います。  
令和5年度は、「ワイワイさびしいツアール」と題し、仮場所機能を持った拠点を紹介するツアーを全3回行い、地域でのまちあるきを実施しました。  
この交流会を通じ、これまでまちのおとに関わったことのない方にも多く参加していただき、新たな人材発掘の場となりました。

#### ③「学ぶ」事業

まちを知り学ぶ機会を設けています。

- まちづくり応援フォーラム**  
→地域まちづくり推進や団体間連携促進の機会創出のため、勉強会や交流、意見交換の機会としてまちづくり応援フォーラムを年1回開催しています。  
令和5年度は、区内の10団体が新川崎タウンカフェにお集りいただき、5分程度で活動内容のプレゼンを行い、新たなまちの資源として紹介しました。  
参加者同士で応援メッセージを送りあうことで横のつながりが生まれ、団体の活動の幅を広げることができました。  
また、当日、他都市で活動している団体の講演として横浜市金沢区にある古民家（空き家）をリニューアルしたコミュニティサロン「雷鳴サロ」ン」ジのえんがわ」を運営している「高橋 秀子」氏を招き、地域活動に関する質疑応答を交え、質疑の学ぶことができました。  
このような取り組みを機に、幸区で活躍する団体を紹介する場を定期的に行うことで新たな人材発掘や、連携促進につながっていくことを期待できると考えられます。

他にも・・・  
団体のスタートアップや活動支援を行うために、新川崎タウンカフェの休業日を活用して場所提供を行う「OpenCafeDay」を行っています。

地域活動のこと、「まちのおと」にお話してください

# 02 | SDC (ソーシャルデザインセンター) に関する取組 (中原区)

## 中原区

・「知る」「集う」「つながる」等の機能を実践する中原区SDCの取組を令和4年10月から開始。  
 ・月1回のYORIAI(定例会)の開催とともに、テーマ別のグループ活動として、里山保全や自然体験など地域の課題にお試しでチャレンジする取組、地域の資源や魅力を発信する中原区の「宝の地図」の作成、対話を通してつながりを作る交流会等、機能実践の取組を区内の様々な場所で実施した。

### ●令和6年度の主な取組

・月1回のYORIAI(定例会)の開催とともに、SDC運営の課題を検討する運営検討会を3回行い、これからの中原区SDCで目指すこと、取り組みたいこと、運営体制等の検討を行った。結果として、広報活動の強化・充実などに取り組むことを9月14日に開催したYORIAI(定例会)で報告した。

・YORIAI(定例会)を、しんまるcoffee(新丸子)や工房カフェ(武蔵中原)、新城WORK(武蔵新城)といった地域のコミュニティスペースで積極的に開催。まちなかでの開催により、今まで地域活動に参加したことがない近隣住民の参加につながった。

・中原区SDCを知ってもらうため、なかはら区民祭でのSDC企画体験ブースの出展を行った。また、市民団体同士のつながりを作り、新たな活動へ広げる語らいの場として、中原区市民提案型事業とSDCとのコラボ企画「つながりカフェ」を初開催した。

・中原区SDCでのつながりから、企業と連携した「夏祭り縁日イベント」への出展、全国都市緑化かわさきフェアへの協力・出展、中原市民館での「SDC大交流会」などの取組が実現した。

### ●令和7年度の予定

・運営検討会や、新規参加者を対象とした中原区SDC説明会を開催する。

・引き続き、区役所や中原市民館だけでなく、地域のコミュニティスペース等でのYORIAI(定例会)の開催や、各種イベントでの広報や出展によって、新たなつながりづくりや、参加者が希望する取組の実現を目指していく。



**中原区SDCとは?** Social Design Center

地域主体のつながりや新たな活動を生み出すために、月1回の定例会やテーマ別グループ活動などさまざまな取組を行っています。

**●何のために活動するの?**

参加メンバーの **①生きがいの発見** **②新しい価値の創出** **③抱えた課題のクリア** に貢献します。

**●何が出来るの?**

- ①仲間づくりができる!
- ②やりたいことの提案ができる!
- ③情報発信ができる!

**●YORIAI(定例会)**

中原区SDCメンバーによる定例の交流・共有・提案の場です。

【開催】 偶数月第3水曜日 18:30- 奇数月第2土曜日 10:00-

【内容】 第一部: YORIAI企画\_30分-45分  
 第二部: 各グループ報告\_15分  
 第三部: つながりタイム\_30分  
 ※ トーク1時間半程度 途中退出・途中参加OK

【場所】 中原区役所、中原市民館、オンライン、他

**●テーマ別グループ活動**

**課題チャレンジ**

市民活動を行っていくうえで、課題に取り組む

「知ってみよう! やってみよう! なかはら」様々な地域課題を明らかにし、課題解決に向けた活動に結びつけていく  
 ※2024年度は、「防災・減災」「公園・緑地活用」「子育て・まちやんサロン」のテーマで留学・実地に取り組む

「YORUBE(若る日/若田)の会」開催  
 井田山で夜の歴史観察会も交流も  
 ※「井田山を盛り上げたい」という地域課題に対する貢献プロジェクト

**なかはら宝さがし隊**

地域の宝をさがし、宝の地図で、区民のやってみたいを応援

宝をさがす  
 地域にある活みや魅力、暮らしに役立つモノ・コト・ヒトを探す

宝の地図をつくる  
 宝の地図でみんなが見えるようにする

やってみたいを交流  
 地域で何かをやってみたい、そんな思いを実現の一助となるように

**交流会**

誰かと話し、仲間を作ることで、何かを始めるときとする

全ての人に聞かれた、対話のための場作り  
 誰もがアクセスでき、対等かつ平等でオープンな意見交換を行う。「テーマ」を決め、それぞれの経験や価値観、考えを語り合う

**SDCのつながりからたくさんの取組が実現しました!**

「つながりカフェ」を開催し、市民団体同士のつながりを作り、新たな活動へ広げる語らいの場として、中原区市民提案型事業とSDCとのコラボ企画「つながりカフェ」を初開催した。

「つながりカフェ」を開催し、市民団体同士のつながりを作り、新たな活動へ広げる語らいの場として、中原区市民提案型事業とSDCとのコラボ企画「つながりカフェ」を初開催した。

**●もっと知りたい方へ**

詳細はこれから

YORIAI(定例会)の開催情報や参加のガイドライン等を掲載しています。

Slackの要案内

中原区SDCの情報共有・連絡ツールとして利用しているSlackにご招待します。右側のQRコードからお申込みください。

# 02 | SDC (ソーシャルデザインセンター) に関する取組 (高津区)

## 高津区

- ・SDCの機能として、地域人材の発掘や参加機会の創出を目的に、これまでに「まちづくりカフェたかつ」を対面・オンラインにより、計19回開催。参加者間で仲間づくりや企画の具体化が進み、「まちの企画室」を通じてアイデアの実践に結び付くなど、「まちのひろば」立ち上げにつながっている。
- ・令和5年4月15日から地域活動に関する相談窓口を始動。高津スポーツセンター内窓口(週2回)と、メール(随時)の対応。令和6年度の相談件数は49件。区民の持ち込み企画を小学校の寺子屋で実践する等のコーディネートができた。また、Facebookを活用して区内の市民活動情報等を発信するため、令和6年度は97件投稿した。
- ・相談窓口周知のため、「まちづくりカフェたかつ」とコラボした交流会や区内施設での出張相談&PRを実施したほか、各種団体総会にて広報紙を用いた説明等を行った。
- ・多様な主体による共創の取組(デザインラボ)として「脱炭素アクションみぞのくちプロジェクト創出部会」で市民参加のワールドカフェや企業連携による商業施設への出展、取組事例報告会等を実施した。

### ●令和6年度の主な取組

出張相談会等により相談窓口の周知を図りつつ、コーディネート事例を増やせるように相談窓口とSDC各機能の連携を強化した。また、相談事例や地域のイベントをSNSや広報紙(年2回)を通じて情報発信したほか、「まちづくりカフェたかつ」の開催や「まちの企画室」との連携、「市民活動支援ルーム」の運営により、団体や個人の地域活動を支援した。

### ●令和7年度の予定

引き続き、窓口や出張相談会を通して、地域活動へ関心のある区民・団体からの相談を受け付け、相談内容の実現に向けてコーディネートを行う。  
また、まちづくりカフェたかつ等を通して市民創発の土壌づくりを行っていくとともに、広報紙やSNSを通じて、区SDCの取組や、区内のまちのひろば等に関する情報を発信し、つながりづくりや地域活動への参加の機運を醸成する。



## 高津区 ソーシャルデザインセンター

■高津区SDCの目指すものは？  
地域課題解決に向けて地域の企業・団体・区民など多様な主体が「つながり」、「強みを持ち寄り」、「アイデアをみんなで実現する」まちづくりを目指します。そのために、「市民創発の土壌づくり」「市民創発による課題解決の実践」などを進めています。

■高津区SDCとは？  
企業・団体・区民がつながる機会を増やし、アイデアの実現を支援する仕組みです。

**相談窓口・コーディネート機能**  
地域課題を解決したい人、地域活動に関心がある人、実践している人の相談窓口(対面:週2回高津スポーツセンター、メール:随時)

**広報・情報発信機能**  
SDCの広報、地域活動団体のイベント等情報の発信(Facebook、広報紙作成・配布)

**地域デザイン会議**  
地域課題の把握  
市民の行政参加機会の拡充  
協賛の確保  
・各種広報に多数な場を確保

**人材発掘機能**  
つながる機会の提供  
思いや共創、新たな参加と交流、まちのひろば創出に向けた仲間づくり

**人材育成・交流促進機能**  
活動の実践を通じた人材育成、つながりづくり  
市民団体間の交流促進  
団体間交流による相互理解、連携のきっかけづくり

**マッチング・プロセス機能**  
区民どうしの連携  
地域で活動する区民どうしの連携によるプロジェクト化  
事業者・団体間の連携促進  
事業者間や団体との相互・連携によるプロジェクト化  
市民創発による課題解決の実践  
・「たかつデザインラボ」(事業者、自治体等が協賛する仕組みづくり)、この仕組みから「脱炭素アクションみぞのくちプロジェクト創出部会」が誕生

**市民創発の土壌づくり**  
市民創発の土壌づくり、市民活動支援ルーム、まちづくりカフェたかつ

**編・資料の提供**  
市民活動支援ルーム

**相談・交流会の場づくり**  
市民創発型協働事業実施の場づくり  
高津区市民活動推進事業等

地域課題の解決に向けた具体的な取組(プロジェクト)創出の支援機能  
プロジェクトの実現に必要な資金等の支援  
市民活動型協働事業の推進、市民の連携を促進する取組「まちの企画室」等

**相談窓口 & 広報・情報発信**

令和5年4月に、SDCに関する相談窓口を開設しました。火曜・土曜の11時~18時(年末年始は要予約)川崎市高津スポーツセンター1階談話コーナーにて※メールでの相談は随時受け付けています。  
self\_takatsusdc@icloud.com

Facebook発信中！  
区内で活動する人、団体、企業、行政など、地元ならではのさまざまな情報を掲載しています。団体のイベントや活動内容などの発信もできます。地域活動に関するチラシの配発やFacebookで発信を希望する方は、相談窓口まで。

Facebook (Co-TAKATSU)

**まちの企画室**

大山街道周辺地域を盛り上げる市民参加型の企画を募集し、資金、ノウハウ、情報発信などを支援する取り組みです。地域活性化に向けた未来の担い手の創出と、地域に主体的にかかわる人を増やすことを目的としています。令和6年度は14件の提案があり、プレゼンテーションで2企画を選定しました。  
過去の提案など詳細はコチラ

【お問合せ】高津区役所企画課  
TEL 044-861-3131 FAX 044-861-3103  
メール 67kikaku@city.kawasaki.jp

## 02 | SDC（ソーシャルデザインセンター）に関する取組（宮前区）

### 宮前区

・宮前区SDCは令和4年度に立ち上げワーキンググループメンバーを募集。ミーティングや視察等を計21回行い、SDCの機能や運営方法について検討を重ねた。

・令和5年度からは、参加する人が「ゆるさ」や「気軽さ」を大事にしながら、つながりや居場所の発見、地域課題の共有・解決などができることを目指し、区内の様々な人や団体がつながることができる場として、年に3回程度「みやまえBASE」を開催している。みやまえBASEの開催に向けては、月に1回企画会議を開催してプログラムの内容やメンバーの役割を決め、参加者が自身の活動を紹介するみやまえキャンパスや交流会などのプログラムを企画している。

#### ●令和6年度の主な取組

次のとおり、「みやまえBASE」を開催した。

- 6月 第4回 宮前区に愛着をもって暮らすためのヒント（参加者 25人）
- 11月 第5回 「マルシェ&つながるカフェBASE」（参加者 約50人）
- 2月 第6回 映画で地元とつながろう！（参加者 33人）

・第4回・第5回はさぎ沼シェアオフィス（鷺沼駅前徒歩1分）で開催。特に第5回は駅前の好立地を生かして事前申し込み不要とし、ふらっと立ち寄れる形式でマルシェを開催。  
 ・第6回は映画活動をしているゲストを招くとともに、好きな映画のジャンルをテーマに参加者同士で交流。



#### ●令和7年度の予定

引き続き、参加者がゆるやかに地域とつながることができるプラットフォームをめざし、「みやまえBASE」を6月、11月、2月に開催予定。みやまえBASEの開催に向けては、プログラムの内容等を企画する会議を月に1回程度開催予定。

## みやまえBASE

**宮前区SDCが目指すこと**

- ・参加する人が、
- ・つながりや居場所を発見
- ・新しい価値を創出
- ・地域の課題を共有・解決

ができることをめざします

**こんな方はぜひご参加ください！**

- ・これまで地域の活動に参加したことがない
- ・地域のことをもっとよく知りたい
- ・地域に知り合いが少ないので、気軽に話せる人を見つけたい
- ・地域で何か自分でできることを探したい など

**宮前区SDCの2つの機能**

＼まずはここからスタート／

つなぐ（コーディネート機能）

小さなニーズが自然とつながる

- ・人が集まることで、人、情報、知識、歴史、資源が自然とつながる
- ・さまざまな世代や属性の人が参加できるようなきっかけづくり
- ・まちづくりに普段関わらない人が参加する、新しい人が参加できる

ゆるやかに集まって、つながる

生み出す（プロジェクト実施機能）

持続可能なしくみや体制の検討を支援する

- ・お試し実施をもちに、継続するための体制やしくみを一緒に検討し、実現を支援する
- ・関わっている人・ステークホルダー同士のスキルやノウハウを活用

実現を手伝う

やりたいことや地域の課題をみんなで共有して、考える

- ・実現したいことや解決したい地域課題をみんなで考える
- ・関心分野/テーマで参加できる

やりたいことや課題を持ち寄る

実験してしくみを考える

お試しで実施する

- ・やりたいことの実現・課題解決に向けて必要なステークホルダーを集め、アクションをお試しで実施する
- ・お試しの効果を検証する

**みやまえBASE**

年3回（4か月に1回程度）開催しています！  
詳しくは区HPを御確認ください。

場所：宮前区役所大会議室 など

区HP Facebook

市民活動などの発表や交流会を予定していますのでお気軽にご参加ください！

# 02 | SDC (ソーシャルデザインセンター) に関する取組 (多摩区)

## 多摩区

・令和2年3月に、区民主体の運営による「多摩区ソーシャルデザインセンター」が多摩区総合庁舎1階に開設され、地域活動に関する相談受付支援等を実施  
(一般社団法人多摩区ソーシャルデザインセンターによる運営)

・開設以降の取組として、月1回の全体会、週1回の学生カフェで情報共有や企画・検討を進め、地域の支援・活性化を目的とした「登戸・たまがわマルシェ」の開催や「民家園通り商店会夏まつり」など各種イベントの開催支援、「まちのひろば」創出等に向けた子ども食堂の実施及び開設支援、日本民家園での古民家カフェの運営の他、地域で活動する団体への支援を目的とした「多摩区コミュニティ活動支援事業(多摩区まちのひろば活動支援資金)」等を実施

・令和4年度に、これまでの区域レベルの取組に対する評価・検証を実施し、今後の取組推進に向けた多摩区役所としての考え方を取りまとめ、令和5年度以降も引き続き(一社)多摩区ソーシャルデザインセンターと協定を締結した上で、評価・検証結果を踏まえた取組を推進  
令和5年度は区内全体への更なる展開に向け、Anker フロンタウン生田と連携し、地域活性化や地域の人・団体同士のつながりづくりを目的とした新たな取組を実施

### ●令和6年度の主な取組

多世代の参加、交流を目的とした「カラフルカフェ」を月1回実施した。延べ201人が参加し、シニア・ミドル層の参加を促進した。

また、緑化フェアのおもてなしブースの運営協力、認知症啓発活動ロバさんプロジェクト、エンディングノート作成講座等、新たな取組を実施



ロバさんプロジェクト

### ●令和7年度の予定

引き続き、「登戸・たまがわマルシェ」の開催や、区内各種イベントの開催支援、「まちのひろば」創出等に向けた子ども食堂の実施及び開設支援、カラフルカフェ、認知症啓発活動ロバさんプロジェクト等を行う他、緑化フェア春開催のおもてなしブースの運営協力については、3/22~4/13に実施した。

また、「多摩区コミュニティ活動支援事業(多摩区まちのひろば活動支援資金)」に統合する形で再構築した多摩区市民提案型協働事業の評価・検証を行い、今後の事業のあり方の検討を行う予定



生田出張所でのカラフルカフェの様子

**多摩区ソーシャルデザインセンターに係る取組**

令和2年3月開設  
 開所時間：平日10時~16時  
 場 所：多摩区役所1階

**多摩区ソーシャルデザインセンター (多摩SDC)**

<b>1 相談・活動支援</b> <b>(1) 地域活動に関する相談受付</b> 令和5年度は297件程度の相談を受け 【相談への対応事例】 ・区内障害者団体等の作品の展示・販売支援 多摩SDC事務所で作品の展示販売・販売を実施 多摩SDCスタッフが販売業務を担う形で支援 ・イベント実施の支援・協力 登戸まちなか遊緑地や民家園通り商店会夏まつり の開催支援を実施 <b>(2) 多摩区地域コミュニティ活動支援事業(まちのひろば活動支援資金)</b> 地域活動を行う団体・法人が、地域の新たなコミュニティの課題解決につながる「事業」を行う場合に、その資金の一部を多摩SDCが支援 【令和3年度交付実績(3団体)】 ・地域活性化コミュニティの再構築(10万円) ・区民参加型アートプロジェクト(10万円)等 【令和4年度交付実績(5団体)】 ・地域支援、ママ・子どもの居場所づくり(10万円) ・多摩区お祝いソングMVプロジェクト(10万円)等 【令和5年度交付実績(7団体)】 ・登戸の商業地域の活性化(10万円) ・パトマイムを通じた多世代交流(10万円)等	<b>3 ネットワーク構築・交流促進</b> <b>(1) 事務所を活用したまちのひろば創出、交流促進に向けた取組</b> 【主な取組】 ・子ども食堂の実施及び開設支援 子育て家庭への支援を目的に月1回開催。 また、多摩SDC立上げ支援により多摩区内で 7か所の子ども食堂が新たに開設 ・まっちスクールの開催 小中学生のための学習支援、学校や家庭以外での第3の居場所になること、保護者の負担を減らすことを目的に週2回開催 ・学生カフェの開催 概ね週1回、多摩SDCが主催・協力するイベント等の企画や打合せ等 <b>(2) 地域交流促進のイベント開催、地域イベントの参加・協力</b> 【主な取組】 ・「登戸・たまがわマルシェ」 ・「登戸・たまがわうんどうかい」の開催 ・「登戸まちなか遊緑地」への出店・運営協力等
<b>2 情報収集・発信</b> ・HP、各種SNSによる情報発信 ・区内小中学校・幼稚園・保育園・大学への広報活動(チラシの配布等) ・タン紙を通じた情報発信等	<b>4 調査・研究・実験・課題解決の実践</b> ウォークサバゲ-導入や多摩川河川敷の利活用等市の実証実験への協力 <b>5 人材育成</b> <b>(1) 地域の中高校生の人材育成に向けた取組</b> ・中高生を対象に、イベント等の地域活動を体験できるプログラムを実施等 <b>(2) 運営組織スタッフの人材育成に向けた取組</b> ・多摩SDCの新規スタッフ等を対象としたコミュニティ施策等の勉強会 ・子ども食堂でのボランティア希望者を対象とした説明等 <b>6 その他の取組</b> ○小学校への出張授業の取組 ○収入確保に向けた取組 ・地域のイベント等への出店 ・地域の店舗と連携した事務所での物販(弁当販売)等 ○活動報告会の開催 毎年度末に区民への報告会を開催

協定の締結  
 第1期：R1.12~R5.3  
 第2期：R5.4~R9.3  
 R4年度に実施した評価・検証に基づき、「一般社団法人多摩SDC」との協定を更新

➡

多摩SDC  
 多摩区におけるSDC開設理念  
 みんなが認め合い方を合わせて  
 みんなが幸せなまちをつくる

開辦理念の  
 実現に向けた  
 連携・協力

多摩区役所  
 ・事業実施に係る運営費用の支援  
 ・多摩SDCの取組に関する評価・検証を踏まえた効果的な確立支援

開辦理念の  
 実現に向けた  
 連携・協力

12

## 02 | SDC (ソーシャルデザインセンター) に関する取組 (麻生区)

### 麻生区

- 令和元年度に「あさお希望のシナリオプロジェクト」を立ち上げ、「みんながつながる みんなが輝く I♥ASAO」をキャッチフレーズに始動。
- 令和4年度に「あさお希望のシナリオ実行委員会」を設立し、SDCモデル実施に向け、SDCの機能を具体化した5つのプロジェクトの試行を行い、令和4年12月に区民の方を集め、活動報告会を実施。
- 令和5年度は、令和6年度の麻生区版SDCの開設に向けて、プロジェクトのモデル実施 (SDC-Car、100人カイギなど) を行うとともに、SDC機能の検討や開設準備を実施。

#### ●令和6年度の主な取組

- 4月29日 (月・祝) 麻生区ソーシャルデザインセンターを開設。開設記念イベントとしてまちのひろば祭りを開催。約40の地域団体が参加。
- 町内会の夏祭り等にSDC-Carが出張、メンバーがお祭りサポーターとして参加するなど、既存団体との交流、団体の周知を実施。
- 10月13日 (日) に開催されたあさお区民まつりでは、「子ども遊び体験」の出店や飲食販売、SDC紹介パネルの展示等を実施。約80人の学生ボランティアがまつりの運営を支援。
- 100人カイギを計12回実施。
- 12月4日 (水) NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンター設立。
- 令和7年2月1日 (土)、2日 (日) 市制100周年記念事業「あさおの川崎100周年祭」の一環としてまちのひろば祭りを開催。

#### ●令和7年度の予定

引き続き地域のイベントへの積極的な参加や相談受付を行うとともに、新たな参加の促進、団体同士の連携や交流の場づくり等のためイベントや市民講座等を開催する。また、他区SDCと交流・情報交換を行い、SDC同士の連携を図る。



まちのひろば祭り



100人カイギ

**あさおSDCが目指す姿**

新たな参加を促しながら、さまざまな主体と連携し、取組を一体的に推進。

「市民研究」による地域コミュニティの活性化

**8つの機能**

- 1 新たな参加を促す
- 2 情報収集・情報提供
- 3 既存団体間ネットワーク構築
- 4 コードネットワーク・マッチング
- 5 オンラインでの関係づくり
- 6 人材育成
- 7 相談・活動支援
- 8 調査・研究

**まちのひろばの産出・相談**

SDCの小さな窓口、地域活動が地域課題を自動的に「SDCカー」が区内の各イベントに出張します。相談を受けたり、住民同士が気軽に交流できる場を提供したり、多世代の新しい出会いの場や、地域の居場所を創出します。

**団体などの交流の場づくり**

まちのひろば祭りなど、地域団体・団体などが参加するイベントを開催することで、団体や個人が交流し、つながる機会を創出します。

**SNS/WEBでの情報収集・発信**

さまざまな団体・コミュニティのイベント情報など、地域活動についての情報を公式アカウントで発信していきます。

**市民講座・セミナー**

身近で面白い活動をしているゲストの話を聞く「100人カイギ」を行うなど、さまざまな地域の活動を知り、学ぶ機会を開発します。

お問い合わせ先 麻生区ソーシャルデザインセンター info@asao-sdc.com HP https://asao-kibou.com/ あさお SDC 全体の取組に関することや、麻生区役所企画課 TEL. 044-965-5112 FAX. 044-965-5200

QRコード: Homepage, 公式LINE, Facebook

## 02 | SDC（ソーシャルデザインセンター）に関する取組

区	運営形態・運営主体	取組の概要	各区で現在行っている支援／行政の関わり方	今後の課題・検討事項
川崎区 2024年 4月～	事務局、SDC連携メンバーのネットワークによる運営	事務局、SDC連携メンバーによるまちのひろばの創出、地域活動に対する相談受付や地域活動等の支援、地域課題の解決を目指した社会実験の展開や新たな参加や交流のきっかけづくりなどに取り組むことで、地域課題の解決や新たな価値を生み出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局に委託料を支出</li> <li>・情報共有・意見交換、庁内での共有、行政関連の調整</li> <li>・川崎区地域活動助成金の支出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDC連携メンバーの登録によるネットワークの拡大</li> <li>・川崎区地域活動助成金の活用の促進</li> </ul>
幸区 2021年 1月～	事業者（株式会社イータウン）による運営	新川崎タウンカフェの一角にSDCを開設し、「知る」「話し合う」「学ぶ」「相談する」「つながる」を実践する事業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営事業者へ補助金を支出</li> <li>・情報共有・意見交換、庁内での共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動範囲の拡大</li> <li>・自主財源の確保</li> </ul>
中原区 2022年 10月～	集まった人たちの緩やかなつながりの中で持ち寄り型の運営	月1回の定例会や、「知る」「集う」「つながる」などの機能を実践するテーマ別のグループ活動を中心に、様々な取組が生まれている。Slackなどの活用で情報共有、つながりを広げている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の運営費負担は現時点では想定なし</li> <li>・定例会の会場やオンライン環境の提供</li> <li>・運営検討に関する意見交換の場を設定</li> <li>・情報共有・意見交換、庁内での共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の参加者への事務局業務の負担</li> <li>・中原区SDC自体の広報不足</li> <li>・定例会の開催場所の検討</li> <li>・新規参加者の獲得</li> </ul>
高津区 2023年 4月～	市民創発につながる様々な仕組みを組み合わせ、区全体でSDCの機能を構成	相談窓口、地域活動のアイデアをプロジェクト化する方法を学ぶ「まちづくりカフェたかつ」、区内事業者や団体等の連携の場「デザインラボ」、企画の実現に向けてコーディネートを行う「まちの企画室」を展開。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口などそれぞれのしくみの運営を各事業者に委託（まちづくりカフェの一部は直営）</li> <li>・出張相談窓口等の会場提供・調整</li> <li>・情報共有・意見交換、庁内での共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の認知度向上</li> <li>・相談者や各団体のアイデアを既存の仕組みと連携させて実現に向け進めるためのネットワーク強化及びコーディネート力向上</li> </ul>
宮前区 2023年 6月～	集まった人たちの緩やかなつながりの中で持ち寄り型の運営	区内の様々な人や団体がつながることができる場として「みやまえBASE」を年3回開催し、企画会議を月1回程度開催することで、つながりや居場所の発見、地域課題の共有・解決等をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営予算は現時点では想定なし、伴走支援を事業者に委託</li> <li>・企画会議や定例会、イベントの会場提供・調整</li> <li>・情報共有・意見交換、庁内での共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの方に参加いただき、市民主体で持続的に運営できる体制の構築</li> <li>・認知度の向上</li> <li>・新規参加者の確保</li> </ul>
多摩区 2020年 3月～	多摩区ソーシャルデザインセンターによる運営（2020年8月～一般社団法人化）	多摩区総合庁舎1階に開設。月1回の全体会や週1回の学生カフェで情報共有や事業の企画を行い、地域活動に関する相談受付・支援等の他、地域の支援・活性化を目的とした各種イベントの開催及び開催支援を実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織と協定を締結し補助金を支出</li> <li>・企画会議やイベントの会場提供</li> <li>・広報、情報共有・意見交換、庁内での共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主・自立に向けた運営のあり方及び事業を継続していくための基盤整備</li> <li>・多世代の参加による運営体制の強化</li> </ul>
麻生区 2024年 4月～	NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンターによる運営	月1回程度の全体会で情報共有や事業の企画などを行うとともに、地域イベントへの積極的な参加やイベント・講座等の開催を通じて、新たな参加の促進、団体同士の連携や交流の場づくり、地域活動を学ぶ場の提供などの事業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織と協定を結び負担金を支出</li> <li>・定例会等の会場提供</li> <li>・情報共有・意見交換、庁内での共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民主体で持続的に運営できる基盤の構築</li> <li>・相談受付など常設の場所の必要性に関する検討</li> <li>・区内の他団体との連携・情報共有</li> </ul>

# 03 | 地域デザイン会議に関する取組

## 地域デザイン会議運営指針

### 基本的な考え方（取組の方向性）

- 大都市における市民自治充実の観点から、身近な区を単位として、「区における行政への参加の場」を制度として保障・充実させるため、引き続き継続的な意見聴取を推進しながら、**より多くの区民が関わり参加しやすい機会の拡充を図る。**
- 地域デザイン会議は、一律の枠組みを最初から決めるのではなく、**議題やテーマに応じて、その都度、弾力的に運用できる柔軟なしくみとする。**
- より複雑化する地域課題に対応するため、**区役所と局等相互の適切な調整**により、**地域コミュニティにおける支え合う関係づくりと市民創発型の課題解決につなげる。**

### 会議の運営

○運営指針に基づき、次の点に留意しながら取組を進める。

#### 取組の方向性を設定

##### 1 取り扱う課題、テーマを設定

- ・区民の参加と協働により課題解決に向けた取組を進める必要があるものを設定

##### 2 議題・テーマに応じた取組の方向性を設定

- ・**短期・中長期の進め方**（※）を参加者との間で共有しながら検討

（※）【**ビジョン型**】：区計画や区のまちづくりに反映し、長期的な視点で施策の実現を進める

【**環境づくり・機運醸成型**】：区民、地域団体、企業など多様な主体と連携し、機運醸成を進める

【**具体的な課題解決型**】：地域課題の解決に向けた具体的な取組を実施する など

#### 推進体制を構築

##### 3 関係局との連携

- ・課題解決に向けて、**区役所と関係局が連携**し、一体的な体制により取組を進めるため、テーマ設定の段階から早期の情報共有を行う

##### 4 多様な主体、関連する事業との連携

- ・**各区ソーシャルデザインセンター**等の「新たなしくみ」や**車座集会**等の関連事業と連携し、庁内外の地域資源やリソースを最大限に活用

#### 広報・情報発信

##### 5 取組の見える化

- ・区の有する様々な広報ツールを活かし、効果的な広報・発信

- ・区民や参加者を巻き込んだ情報発信

⇒取組のプロセスを見える化し、区民の参加をより一層拡充

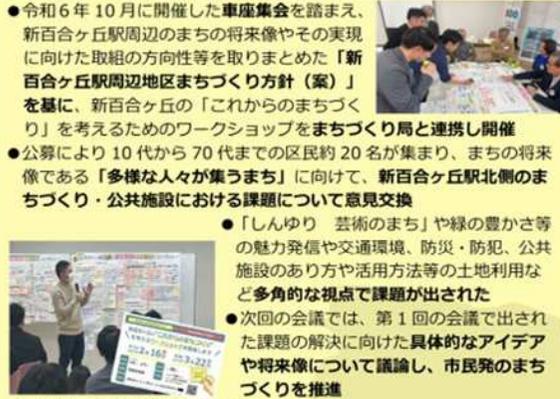
# 03 | 地域デザイン会議に関する取組

## (1) 各区における地域デザイン会議の取組

**【麻生区】（ビジョン型）**  
**「新百合ヶ丘の“これからのまちづくり”を考えるワークショップ」**

- 令和6年10月に開催した車座集いを踏まえ、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を取りまとめた「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針（案）」を基に、新百合ヶ丘の「これからのまちづくり」を考えるためのワークショップをまちづくり局と連携し開催
- 公募により10代から70代までの区民約20名が集まり、まちの将来像である「多様な人々が集うまち」に向けて、新百合ヶ丘駅北側のまちづくり・公共施設における課題について意見交換
- 「しんゆり 芸術のまち」や緑の豊かさ等の魅力発信や交通環境、防災・防犯、公共施設のあり方や活用方法等の土地利用など多角的な視点で課題が出された
- 次回の会議では、第1回の会議で出された課題の解決に向けた具体的なアイデアや将来像について議論し、市民発のまちづくりを推進

〔第2回のテーマ〕（第1回から継続）  
 「新百合ヶ丘の“これからのまちづくり”を考えるワークショップ」（令和7年3月22日開催）



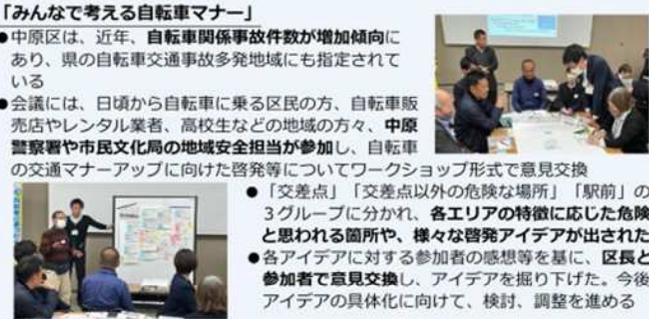
**【多摩区】（環境づくり・機運醸成型）**  
**「地域活動マッチングイベント 地域のつながり！たまたまみっけ！」**

- 「地域でのつながりのつくりかた」をテーマに開催した車座集会（令和6年2月）から生まれた好事例の横展開を目指し、「つながりの希薄化」を課題に設定
- 地域の「居場所」「つながり」を見つけるきっかけづくりに向けて開催する地ケアフォーラムと開催目的が合致していることから、合同で開催
- 参加者の「地域で何か始めたい」という想いの後押しに向けて、有識者による講演や地域活動事例紹介を実施。また、有識者・地域活動実践者・最近活動を始めた人・まだ始めていない人による「つながりのきっかけづくり」等についての意見交換を実施し、参加者からも、登壇者への質問や意見を受け付けることにより、区民意見聴取の機会を設けた
- 参加者は、意見交換を踏まえ、興味のある活動団体の出展ブースを巡り、後日開催の活動見学に申し込み等、実際の地域活動への参加の機会も設けた
- 当日は、参加者による活動団体への参加機会を創出するとともに、団体同士での交流促進など、地域の「つながり」の場が創出された



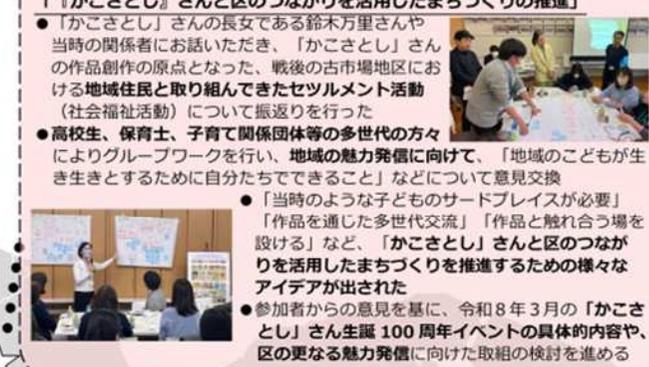
**【中原区】（環境づくり・機運醸成型）**  
**「みんなで考える自転車マナー」**

- 中原区は、近年、自転車関係事故件数が増加傾向にあり、県の自転車交通事故多発地域にも指定されている
- 会議には、日頃から自転車に乗る区民の方、自転車販売店やレンタル業者、高校生などの地域の方々、中原警察署や市民文化局の地域安全担当が参加し、自転車の交通マナーアップに向けた啓発等についてワークショップ形式で意見交換
- 「交差点」「交差点以外の危険な場所」「駅前」の3グループに分かれ、各エリアの特徴に応じた危険と思われる箇所や、様々な啓発アイデアが出された
- 各アイデアに対する参加者の感想等を基に、区長と参加者で意見交換し、アイデアを振り下げた。今後、アイデアの具体化に向けて、検討、調整を進める



**【幸区】（環境づくり・機運醸成型）**  
**「『かこさとし』さんと区をつながりを活用したまちづくりの推進」**

- 「かこさとし」さんの長女である鈴木万里さんや当時の関係者にお話をいただき、「かこさとし」さんの作品創作の原点となった、戦後の古市場地区における地域住民と取り組んできたセツルメント活動（社会福祉活動）について振り返りを行った
- 高校生、保育士、子育て関係団体等の多世代の方々によりグループワークを行い、地域の魅力発信に向けて、「地域の子どもが生き生きとするために自分たちでできること」などについて意見交換
- 「当時のような子どものサードプレイスが必要」「作品を通じた多世代交流」「作品と触れ合う場を設ける」など、「かこさとし」さんと区をつながりを活用したまちづくりを推進するための様々なアイデアが出された
- 参加者からの意見を基に、令和8年3月の「かこさとし」さん生誕100周年イベントの具体的な内容や、区の更なる魅力発信に向けた取組の検討を進める



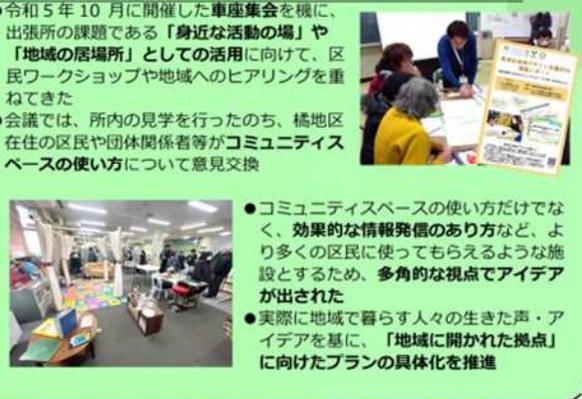
**【宮前区】（環境づくり・機運醸成型）**  
**「エンディングノートにとどまらない終活を地域のみんで考えよう」**

- 令和32年(2050年)に老年人口割合が7区で最も高くなることが予測されるなど、急速な高齢化の進展への対応が課題であることから、充実したセカンドライフを送るために重要といわれる「終活」をテーマに選定
- 終活の現状や実際に親の終活を経験された方などのエピソードを共有しながら、元気で楽しく宮前区に住み続けてもらうために、何から取り組むべきか、また、自分の将来のこと、地域のことを考えてもらうにはどうしたらよいかなどについて議論
- まずは、気軽に前向きな終活を始めるきっかけとして『プレ・エンディングノート』を書くことを提案し、記載内容や活用方法などについて意見交換
- 議論の結果を踏まえ、早いうちから前向きな終活を考えるきっかけの場として「終活セミナー」（令和7年1月）を開催するとともに、終活の取組を区内へ更に推進するため「終活」をテーマとする車座集会(同年2月)を開催



**【高津区】（具体的な課題解決型）**  
**「構出強所に生まれるコミュニティスペースの使い方を考えよう」**

- 令和5年10月に開催した車座集会を機に、出張所の課題である「身近な活動の場」や「地域の居場所」としての活用に向けて、区民ワークショップや地域へのヒアリングを重ねてきた
- 会議では、所内の見学を行ったのち、橘地区在住の区民や団体関係者等がコミュニティスペースの使い方について意見交換
- コミュニティスペースの使い方だけでなく、効果的な情報発信のあり方など、より多くの区民に使ってもらえるような施設とするため、多角的な視点でアイデアが出された
- 実際に地域で暮らす人々の生きた声・アイデアを基に、「地域に開かれた拠点」に向けたプランの具体化を推進



**【川崎区】（ビジョン型）**  
**「快適な待ち時間の過ごし方を考える」**

- 改定する総合計画に区民の意見を反映させるため、令和6～7年度までの地域デザイン会議については、地域課題対応事業に関連する5分枠からテーマを設定
- 第1回では、「区役所サービス向上」の分野から、3～4月の混雑期に発生する区役所窓口の長い待ち時間について、快適に過ごすためのアイデアをワークショップ形式にて意見交換
- 12名の区民が参加し、実際に窓口を視察した上で、待合スペースに求めることや待ち時間の有効活用の方法などについて、区民目線の意見・提案をいただいた
- 参加者からの意見を、総合計画に反映させるもの、短期的に取り組むもの等に整理した上で、具体化に向けた取組を検討

〔第2回のテーマ〕「自転車事故防止と防災を考える」（令和7年3月8日開催）



## 【川崎区】

### 「快適な待ち時間の過ごし方を考える」【ビジョン型】

- **改定する総合計画に区民の意見を反映させる**ため、令和6～7年度までの地域デザイン会議については、地域課題対応事業に関連する5分野からテーマを設定
- 第1回では、「**区役所サービス向上**」の分野から、3～4月の**混雑期に発生する区役所窓口の長い待ち時間**について、快適に過ごすためのアイデアをワークショップ形式にて意見交換



- 12名の区民が参加し、実際に窓口を視察した上で、待合スペースに求めることや**待ち時間の有効活用**の方法などについて、区民目線の意見・提案をいただいた
- 参加者からの意見を、**総合計画に反映させるもの、短期的に取り組むもの等に整理した上で、具体化に向けた取組を検討**

〔第2回のテーマ〕

・「自転車事故防止と防災を考える」（令和7年3月8日開催）

## 【幸区】

### 「『かこさとし』さんと区のつながりを活用したまちづくりの推進」

#### 【環境づくり・機運醸成型】

- 「かこさとし」さんの長女である鈴木万理さんや当時の関係者にお話いただき、「かこさとし」さんの作品創作の原点となった、戦後の古市場地区における地域住民と取り組んできたセツルメント活動（社会福祉活動）について振り返りを行った
- 高校生、保育士、子育て関係団体等の多世代の方々によりグループワークを行い、地域の魅力発信に向けて、「地域のこどもが生き生きとするために自分たちでできること」などについて意見交換



- 「当時のような子どものサードプレイスが必要」、「作品を通じた多世代交流」、「作品と触れ合う場を設ける」など、「かこさとし」と区とのつながりを活用したまちづくりを推進するための様々なアイデアが出された
- 参加者からの意見を基に、令和8年3月の「かこさとし」さん生誕100周年イベントの具体的内容や、区の更なる魅力発信に向けた取組の検討を進める

## 【中原区】

### 「みんなで考える自転車マナー」【環境づくり・機運醸成型】

- 中原区は、近年、**自転車関係事故件数が増加傾向**にあり、県の自転車交通事故多発地域にも指定されている
- 会議には、日頃から自転車に乗る区民の方、自転車販売店やレンタル業者、高校生などの地域の方々、**中原警察署や市民文化局の地域安全担当が参加し**、自転車の交通マナーアップに向けた啓発等についてワークショップ形式で意見交換



- 「交差点」「交差点以外の危険な場所」「駅前」の3グループに分かれ、**各エリアの特徴に応じた危険と思われる箇所や、様々な啓発アイデアが出された**
- 各アイデアに対する参加者の感想等を基に、**区長と参加者で意見交換し**、アイデアを掘り下げた。今後、アイデアの具体化に向けて、検討、調整を進める

## 【高津区】

### 「橘出張所に生まれるコミュニティスペースの使い方を考えよう」

#### 【具体的な課題解決型】

- 令和5年10月に開催した**車座集会**を機に、出張所の課題である「**身近な活動の場**」や「**地域の居場所**」**としての活用**に向けて、区民ワークショップや地域へのヒアリングを重ねてきた
- 会議では、所内の見学を行ったのち、橘地区在住の区民や団体関係者等が**コミュニティスペースの使い方**について意見交換



- コミュニティスペースの使い方だけでなく、**効果的な情報発信のあり方**など、地域に密着した施設として、より多くの区民に使ってもらえる施設とするため、**多角的な視点でアイデアが出された**
- 実際に地域で暮らす人々の生きた声・アイデアを基に、**「地域に開かれた拠点」に向けたプランの具体化を推進**

## 【宮前区】

### 「エンディングノートにとどまらない終活を地域のみんなで考えよう」

#### 【環境づくり・機運醸成型】

- 令和32年(2050年)に老年人口割合が7区で最も高くなることが予測されるなど、**急速な高齢化の進展への対応が課題**であることから、**充実したセカンドライフを送るために重要といわれる「終活」をテーマに選定**
- 終活の現状や実際に親の終活を経験された方などのエピソードを共有しながら、**元気で楽しく宮前区に住み続けてもらう**ために、何から取り組むべきか、また、自分の将来のこと、地域のことを考えてもらうにはどうしたらよいかなどについて議論



- まずは、気軽により前向きな終活を始めるきっかけとして『**プレ・エンディングノート**』を書くことを提案し、記載内容や活用方法などについて意見交換
- 議論の結果を踏まえ、早いうちから前向きな終活を考えるきっかけの場として「**終活セミナー**」(令和7年1月)を開催するとともに、終活の取組を区内へ更に推進するため「終活」をテーマとする**車座集会**(同年2月)を開催

## 【多摩区】

# 「地域活動マッチングイベント 地域のつながり！ たまたまみつけ！」

【環境づくり・機運醸成型】



- 「地域でのつながりのつくりかた」をテーマに開催した**車座集会**（令和6年2月）から生まれた**好事例の横展開を目指し**、「つながりの希薄化」を課題に設定
- 地域の「居場所」「つながり」を見つけるきっかけづくりに向けて開催する**地ケアフォーラム**と開催目的が合致していることから、**合同で開催**

- 参加者の「**地域で何か始めたい**」という想いの後押しに向けて、有識者による講演や地域活動事例紹介を実施。また、**有識者・地域活動実践者・最近活動を始めた人・まだ始めていない人**による「つながりのきっかけづくり」等についての意見交換を実施し、参加者からも、登壇者への質問や意見を受け付けることにより、区民意見聴取の機会を設けた
- 参加者は、意見交換を踏まえ、興味のある活動団体の出展ブースを巡り、後日開催の活動見学に申し込む等、**実際の地域活動への参加の機会**も設けた
- 当日は、参加者による活動団体への参加機会を創出するとともに、**団体同士での交流促進**など、地域の「つながり」の場が創出された



## 【麻生区】

### 「新百合ヶ丘の“これからのまちづくり”を考えるワークショップ」【ビジョン型】

- 令和6年10月に開催した**車座集会**を踏まえ、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を取りまとめた「**新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針（案）**」を基に、新百合ヶ丘の「これからのまちづくり」を考えるためのワークショップを**まちづくり局と連携し開催**
- 公募により10代から70代までの区民約20名が集まり、まちの将来像である「**多様な人々が集うまち**」に向けて、**新百合ヶ丘駅北側のまちづくり・公共施設における課題について意見交換**



- 「しんゆり 芸術のまち」や緑の豊かさ等の魅力発信や交通環境、防災・防犯、公共施設のあり方や活用方法等の土地利用など**多角的な視点で課題が出された**
- 次の会議では、第1回の会議で出された課題の解決に向けた**具体的なアイデアや将来像について議論し、市民発のまちづくりを推進**

〔第2回のテーマ〕

・「新百合ヶ丘の“これからのまちづくり”を考えるワークショップ」（第1回から継続）（令和7年3月22日開催）

# 03 | 地域デザイン会議に関する取組

## (2) 広報・情報発信（取組の見える化）について

地域デザイン会議運営指針に定める「より多くの区民が関わり参加しやすい機会の拡充」に向けて、地域デザイン会議の取組を広く市民が知り、行政への参加のきっかけとしていただくため、「取組の見える化」に向けた広報の取組を実施した。

### 市HP発の広報・情報発信の取組

- ・図や写真を活用し、地域デザイン会議の趣旨やしくみ等を説明
- ・各区の取組紹介とともに、各区ページのリンク付けや運営指針等の資料の集約など各種情報を集約



地域デザイン会議ページ（抜粋）

### 各区における広報・情報発信の取組

- ・報道発表資料や会議結果を各区のページに掲載するだけでなく、参加者による発信や地域資源を活用した発信など、さまざまな形で「取組の見える化」に向けた広報の取組を実施

#### SNS等を活用した参加者による発信

##### ◆ Instagram



##### ◆ 参加企業HP



##### ◆ Facebook



#### 地域資源を活用した発信

##### ◆ ソーシャルデザインセンター ◆ タウンニュース



#### 区の広報ツールを活用した発信

##### ◆ 区YouTubeチャンネル



### 広報・啓発用資料の作成・活用

- ・地域デザイン会議の趣旨等を区民に周知するために作成した広報・啓発用資料について、市HPへの掲載やイベントでの配布等で活用



### イベントでのブース出展

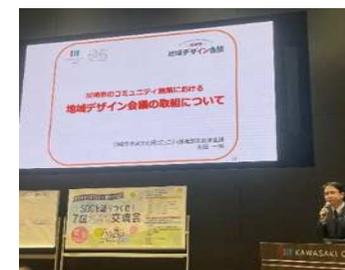
- ・これまでの取組等を紹介するパネルを展示
- ・来場者に取組等を説明するとともに、広報・啓発用資料を配布
- ・区民の行政への参加機会の更なる拡充に向けて、地域課題に関するシール投票を実施



まちのひろばフェス（12月8日）での取組の様子

### コミュニティ施策と連携した広報

- ・コミュニティ施策における地域デザイン会議の位置付け、地域デザイン会議とSDCとの違い及び各区における取組状況を説明



SDC交流会（12月8日）での取組の様子

## 04 | 町内会・自治会支援の取組

### 町内会・自治会への支援

町内会・自治会の活性化に向け、令和3年7月に施行した町内会・自治会活動応援補助金の運用をはじめ、加入促進、負担軽減、個別支援等に取り組んだ。

#### (1) 町内会・自治会活動応援補助金の運用

各区における説明会の実施、補助金活用事例集の発行により制度の浸透を図るとともに、区を通じた意見・要望の収集による事務の見直しを行った。



転倒防止体操 (百合ヶ丘みずき街自治会)

#### ① 令和6年度の申請件数等 (令和6年12月末 申請締切時点)

- ・申請団体数 487/653団体  
(R5: 457/653 団体、R4: 401/650 団体、R3: 347/651 団体)
- ・申請率 74.6%  
(R5: 69.9%、R4: 61.7%、R3: 53.3%)



防災ランプづくりワークショップ (小杉陣屋町一丁目町会)

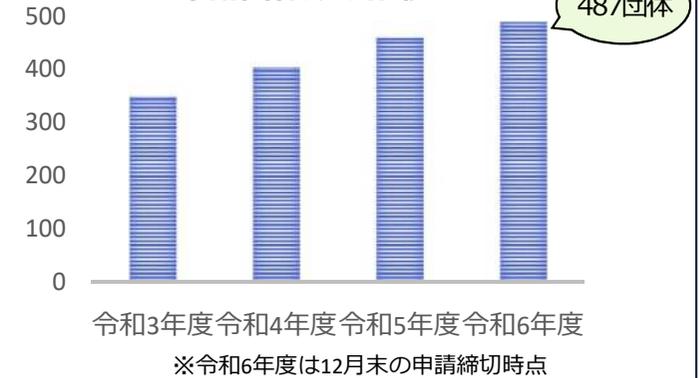
#### ② 補助金活用事例集の発行

各区の好事例を横展開するとともに、小規模な町内会・自治会が申請していないケースが見受けられるため、規模が小さな町内会・自治会の取組を紹介した。

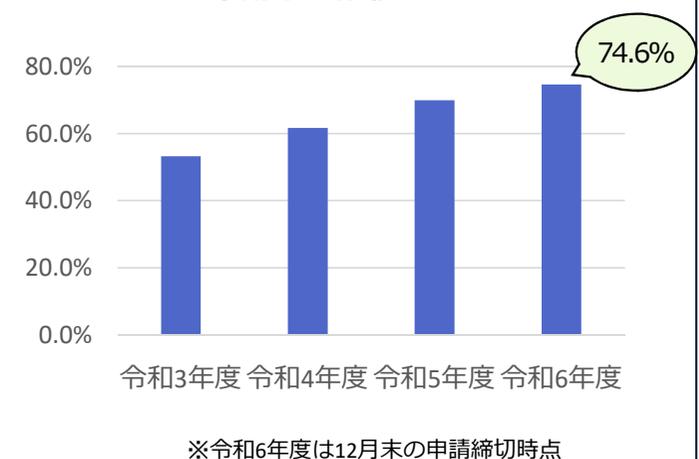
#### ③ 区を通じた町内会・自治会からの意見・要望の収集と制度見直しの検討

制度開始4年目となり制度の浸透が進んだことから、次年度に向けた大幅な制度の見直しまでは行わなかったが、事務の手引きの改訂を行うことで、よりわかりやすいものとなるよう見直しを行った。

#### 町内会・自治会活動応援補助金 申請団体数の推移



#### 町内会・自治会活動応援補助金 申請率の推移



# 04 | 町内会・自治会支援の取組

## (2) 町内会・自治会への加入促進の取組

区民課窓口における転入者へのチラシ・ガイドブック等の配布や、啓発絵本「こども町会長」を使った小学校への出前授業、地域情報紙を活用した身近な町内会・自治会活動の継続的な広報等、区と連携して多面的な広報・啓発活動を実施した。

### ① 絵本「こども町会長」による啓発

大島小学校5年生に出前講座を行い、「こども町内会」の読み聞かせを通じた啓発を行った。

### ② 市ホームページやタウンニュース等を活用した継続的広報

市ホームページで町内会・自治会に関して案内するとともに、タウンニュースを活用して各区版に年2回、こどもタウンニュースに年1回、町内会・自治会に関する記事を掲載した。

### ③ 川崎フロンターレと連携した加入啓発チラシの作成

転入者に向けた加入啓発として、川崎フロンターレと連携したチラシを作成・配布を行った。

### ④ 川崎市コミュニティチャンネル (YouTube) 等での広報



YouTubeでの  
千年新町町内会・子ども会の取組紹介

## (3) 町内会・自治会への負担軽減の取組

「町内会・自治会への依頼ガイドライン」に基づき、川崎市全町内会連合会に依頼する審議会等への委員推薦依頼の集約や、市広報物（回覧・掲示物）の一括配送及び電子媒体のホームページへの掲載など、町内会・自治会の負担軽減に向けた取組を実施した。

川崎フロンターレと連携した加入啓発チラシ

Crest Prime  
レジデンス自治会の取組紹介

はるひ野町内会の取組紹介

## 04 | 町内会・自治会支援の取組

### (4) 町内会・自治会アドバイザー派遣事業

市民自治財団による相談支援事業として「町内会・自治会アドバイザー派遣事業」を継続し、本市と連携しながら5団体の課題解決に向けた取組を支援した。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| ① イベントを通じた新たな担い手、役員の確保            |
| ② 回覧板をはじめとした連絡手段のIT化、ホームページの作成    |
| ③ 住民の自治会運営に対する意識の希薄化、担い手不足        |
| ④ 区域内の災害リスクの洗い出し、防災まちづくりガイドブックの更新 |
| ⑤ 地域特性に応じた防災冊子の作成                 |

### (5) 「川崎プロボノ部」によるデジタル化支援の取組

町内会・自治会のデジタル化に向けた支援のため、川崎プロボノ部による集合型講座を複数回開催した。

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| ① デジタルツール紹介講座     | 参加者数：71町内会・自治会、102名 |
| ② LINE公式アカウント活用講座 | 参加者数：19町内会・自治会、31名  |

### 取組の方向性

町内会・自治会の活動が活性化するよう、補助金の交付や表彰等により市として側面支援するとともに、地域住民の町内会・自治会への自発的な加入や活動への参加促進、町内会・自治会の自主的な設立につながるよう、（公財）川崎市市民自治財団や川崎市全町内会連合会等と連携した取組を行う。



町内会・自治会アドバイザーによる相談支援の様子



川崎プロボノ部によるデジタル化支援の集合型講座の様子

## 05 | マンションコミュニティ等の 住民自治組織に関する取組

### 庁内ワーキングを活用した情報共有・取組の把握

集合住宅におけるコミュニティの事例や、各局区での取組、課題等を把握し、好事例の横展開や啓発等につなげるため、関係局による庁内ワーキングを実施して情報共有を行った。

集合住宅を対象としたつながりづくりの取組の一例

まちづくり局	マンション管理組合登録・支援制度 ・マンション管理組合交流会 令和6年10月5日(土)、令和7年2月8日(土)開催
高津区役所 地域ケア推進課	マンションにおけるつながりづくり支援事業 ・マンションにおけるつながりづくり講演会・交流会 令和7年2月24日(月・祝)開催

## 06 | 市域レベルの取組

### 中間支援組織ネットワーク会議

市域レベルの中間支援組織間の情報共有及び連携につなげる取組として、中間支援組織ネットワーク会議(主催:かわさき市民活動センター)を実施した。

第1回:令和6年6月12日(水) 14時~16時

第2回:令和7年3月4日(火) 14時~16時

ネットワーク会議構成団体

川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)	公益財団法人かわさき市民活動センター
公益財団法人川崎市公園緑地協会	社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
公益財団法人川崎市国際交流協会	公益財団法人川崎市文化財団
公益財団法人川崎市生涯学習財団	(オブザーバー)市民文化局市民活動推進課

## 07 | 職員の意識改革や人材育成の取組

### (1)協働・連携研修

市職員と市民(団体関係者)の意識改革・人材育成を目的とした研修・ワークショップを実施

地域包括ケアシステム構築に向けた連携

「地域の担い手不足へのアプローチ」をテーマとして、市職員と団体関係者が知見や課題を持ち寄り、「担い手不足」を解消し地域の課題を解決する「市民創発」のまちづくりを進めていくための意見交換を行った。

日時:令和7年1月27日(月) 10時~15時 場所:市役所本庁舎  
参加者:50人(市職員、市社会福祉協議会、かわさき市民活動センター、各区SDC等関係者)  
講師:東京都立大学法学部教授 大杉 寛氏

**川崎市 協働・連携研修**  
市民文化局コミュニティ推進部  
協働・連携推進課

その事業、「遊び心」はありますか?

楽しい!で地域がつながる「市民創発」のまちづくり  
課題化する地域の課題、増え続ける行政の業務、連携の叫びの響かない...?  
よりよい地域づくりのために、もっともっと多くの人たちに関わってほしいけれど...?  
短期間で多くの人材の集約に資する調査研究会の発足である。大杉 寛 氏を講師にお招きし、「暮らしの心」ではなく「新しい心」を地域に呼び起こす。多様な事例を通して学びます。

「担い手不足」解消のヒントを探しましょう

- 担い手の高齢化が進まない
- 研修をやっても活動につながらない
- 集まる人はいつも同じになりがち
- 広報が働いていない気がする
- 新しいことを考える余裕がない
- 若い世代は忙しく、地域に親れない?

日時:2025年1月27日(月)  
時間:14時~17時  
場所:川崎市役所本庁舎 第1会議室  
講師:大杉 寛氏  
定員:50名 対象:川崎市職員 関係団体関係者  
申込:下記QRコードから、2025年1月16日(金)までにお申し込みください  
申込先:市民文化局市民活動推進課 電話:044-295-3100 FAX:044-295-3100 Eメール:2skyo@city.kawasaki.jp



# 07 | 職員の意識改革や人材育成の取組

## (2)地域コーディネーター研修とまちのひろば創出職員プロジェクト

現在の少子高齢化及び将来の人口減少社会を見据え、地域包括ケアシステム構築に向けた地域づくりに関する基本的な考え方を学ぶことや、地域のことをよく知り、地域をコーディネートする能力や協働のマインドを持つ職員の育成を図ることを目的として、全庁職員を対象に実施した。

総務企画局人材育成課、市民文化局コミュニティ推進部 協働・連携推進課、区政推進課  
健康福祉局地域包括ケア推進室の共催で実施

### ①地域コーディネーター研修

地域包括ケアシステム構築に向けた地域づくりについて学び、地域をコーディネートする能力や協働マインドを持つ職員の育成を図ることを目的とした研修を行った。

日時：令和6年5月20日（月）・29日（水）9時～17時  
参加者：69名

地域包括ケアシステム構築に向けた連携

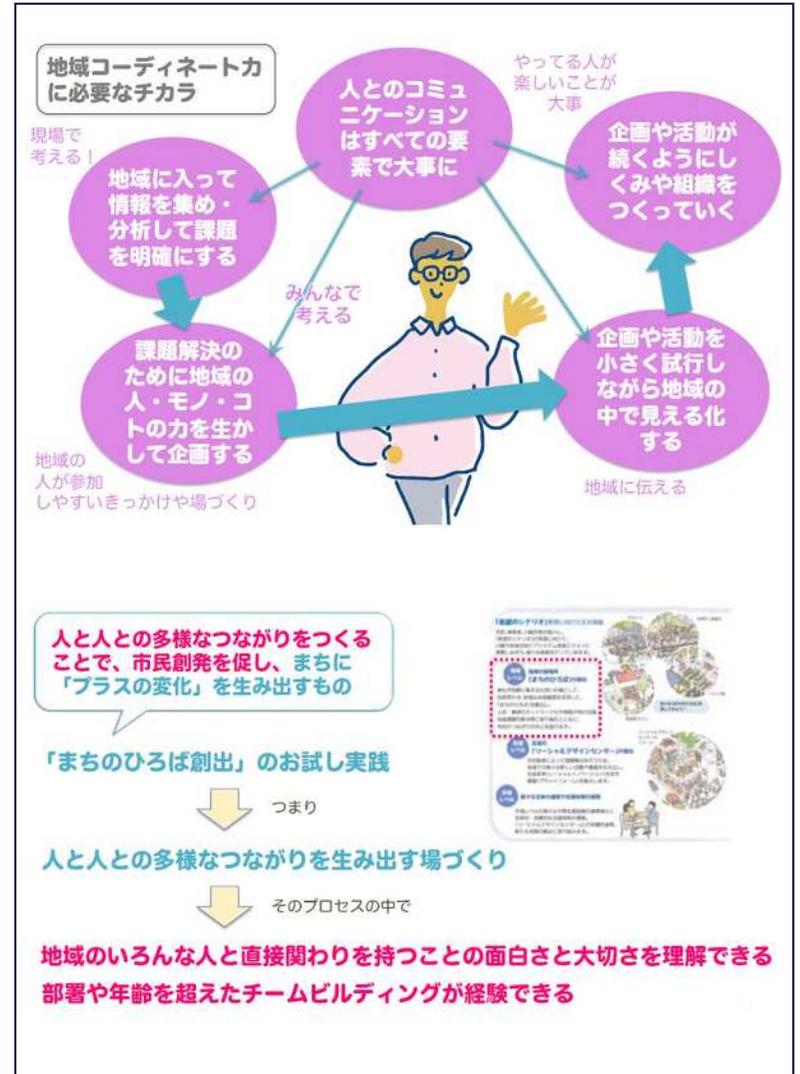


まちのひろば職員プロジェクトの様子

### ②まちのひろば創出職員プロジェクト

全庁から若手職員を中心に9名が参加して、関係部署や地域の方々と連携しながら、誰もが気軽に集える出会いの場「まちのひろば」を創出する実践活動に取り組んだ。

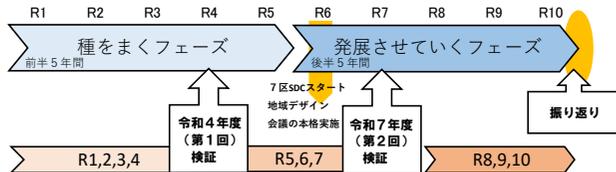
テーマ	日時・場所	内容	実施状況
あっ多摩ろう！ パパと一緒にベビーヨガ &たマップづくり	令和7年1月25日（土） 10:00～12:00 @子育て支援センターつちぶち	北部地域に住む親子を対象に、子育てへのかかわり方に悩みを持つ父親同士の交流のきっかけづくり。ベビーヨガや地域の子育て支援情報の提供。	14組37名 申込受付
はなす！つながる！ 親子でマルチカルチャー	令和6年12月22日（日） 10:00～12:00 @中原市民館	外国にルーツがある親子や日本人親子を対象に、多言語での絵本読み聞かせや民族衣装、手形・足形アート体験を通じて仲間づくり。	7組15名参加 (内訳) 日本人親子6組、 外国籍親子1組



# 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組の今後に向けた検証について

## 1. 目的

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方（以下、「基本的考え方」という。）の目標年次まで概ね残り3年間となる令和7年度に、取組を振り返りながら現在地や課題を整理確認し、今後取り組むべき方向を共有することで、全庁が一体的にスピード感を持って「希望のシナリオ」の実現に向けて取組を進めていくことを目的とする。



## 2. これまでのコミュニティ施策の取組

- 社会変化に対応した、多様な主体が連携した「**市民創発**」による持続可能な暮らしやすい地域を実現するため「基本的考え方」を整理し、コミュニティ施策を推進  
 《主な取組》
  - (1) 地域レベルの居場所「**まちのひろば**」の創出
  - (2) 区域レベルのプラットフォーム「**ソーシャルデザインセンター**」の創出
  - (3) 区民参加により意見交換する場「**地域デザイン会議**」の取組を推進
- **まちフェス×地ケアフェアの開催** (R6.12.8)



(まちフェス×地ケアフェア チラシ)



令和6年4月に全7区で稼働しました！



希望のシナリオ



地域デザイン会議

コミュニティ施策によって創発された住民の活動を通じて、地域における顔の見える関係づくりを進め、見守り・支え合う地域づくりにつなげている。

## 3. 今回の検証における主な論点

- (1) コミュニティ施策に基づく取組の実績の把握、課題の整理
- (2) 各局において展開するコミュニティ関連施策の取組状況の把握と課題の共有
- (3) コミュニティ関連施策の区役所との効果的な施策推進の検討
- (4) 今後のコミュニティ施策における取組の方向性の検討
- (5) 区・市域レベルにおける中間支援機能の今後のあり方の検討

## 4. 検討体制について

川崎市コミュニティ施策推進本部会議の枠組みを活用して、有識者からの専門的な知見を踏まえて検証を進める。

本部会議（局長級）	本部長：市長、副本部長：副市長、部会員：局区長等
幹事会（部長級）	幹事長：（市）コミュニティ推進部長、幹事会員：関係部長、副区長
部会（課長級）	部会長：幹事長が、部会員から指名 部会員：コミュニティ関連施策を推進する課長級

検討にあたっては、コミュニティ施策との連携により推進が必要と考えられる取組については、**既存のワーキンググループ等との連携や必要に応じて作業部会を設置し**、個別に連携の方向性を模索していく。また、**有識者からの意見聴取等も行い**ながら、経過及び今後の方向性をまとめる。

※SDCについては、関係者との対話を通じた取組状況の把握・検証を並行して実施。

## 5. スケジュール

令和7年度		令和8年度
4～12月 これまでの取組の振り返り・課題共有、今後の方向性の検討	1～3月 報告のまとめ	4～5月 最終報告
文教委員会 (前年度取組報告) ●5月下旬	本部会議 ●3月頃	文教委員会 ●5月 本部会議 ●5月
本部会議 ●5/20	～部会・庁内での意見交換、検討～ これまでの取組の振り返り・課題共有 今後の方向性の検討	
～有識者からの意見聴取～		
SDCに関する検証実施		まちフェス・SDC交流会